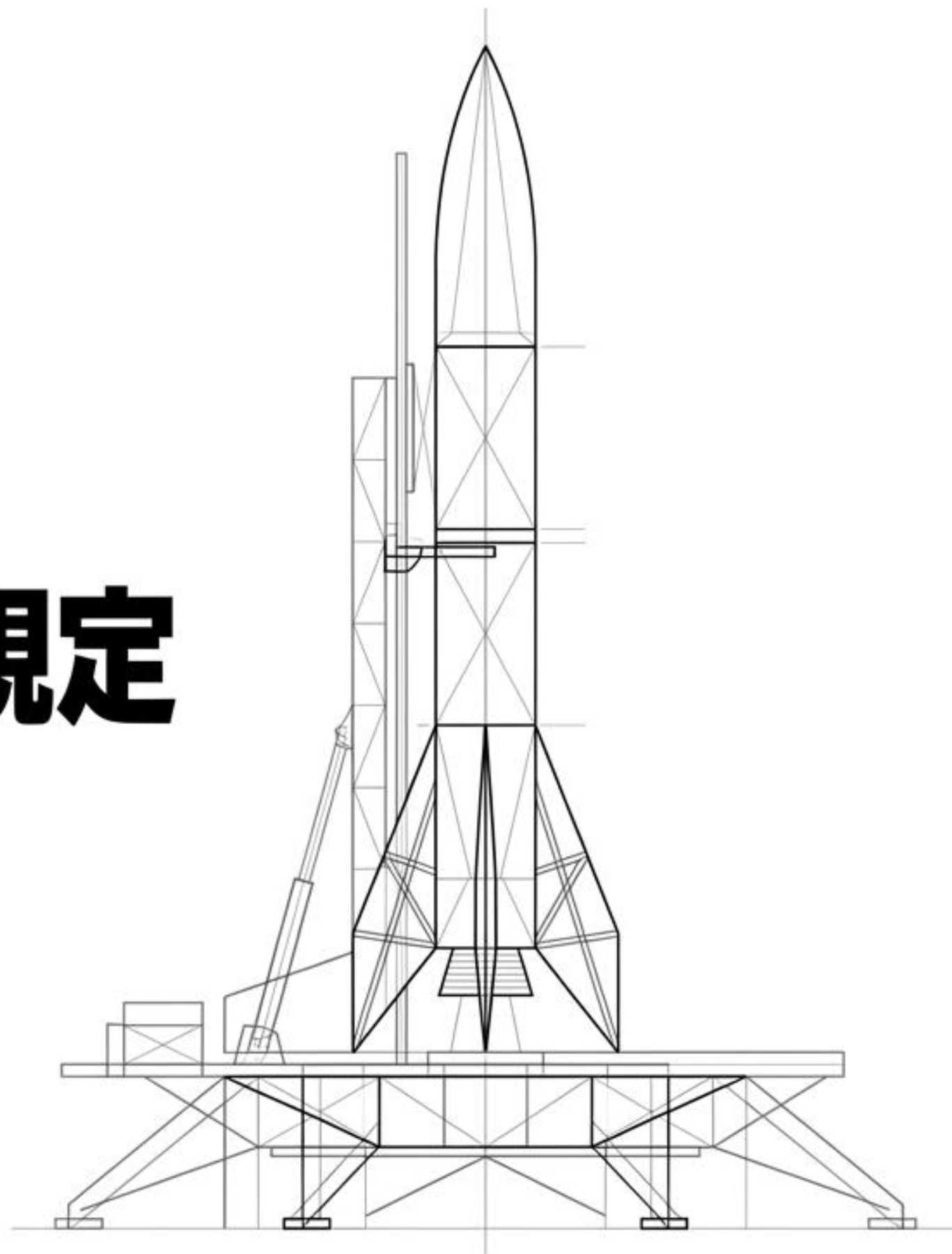


宇宙甲子園ロケット部門 2026

実施概要および競技規定

2026年7月 宇宙甲子園大分大会実行委員会作成



宇宙甲子園の定義と教育的意義

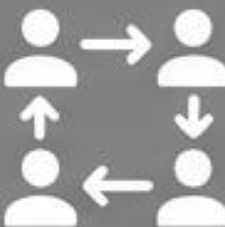
技術力

ロケットの設計・製作・
実験を通じた実践的な
知識の習得。



チームワーク

高校生による組織的な
課題解決と共同作業。



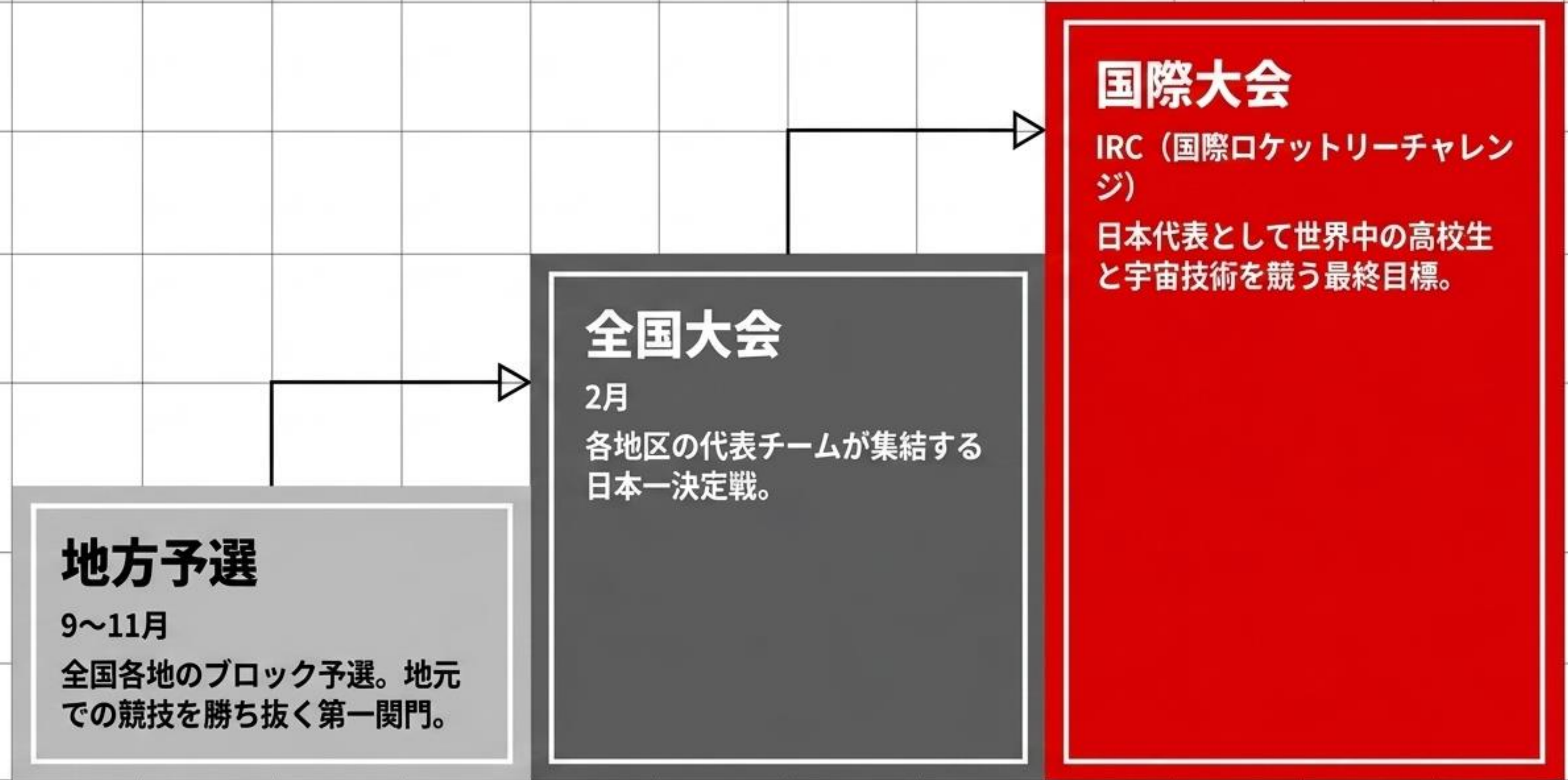
実践的宇宙教育

安全管理能力

リスクを予測し、確実な安全対策を
自ら講じ、説明する能力。



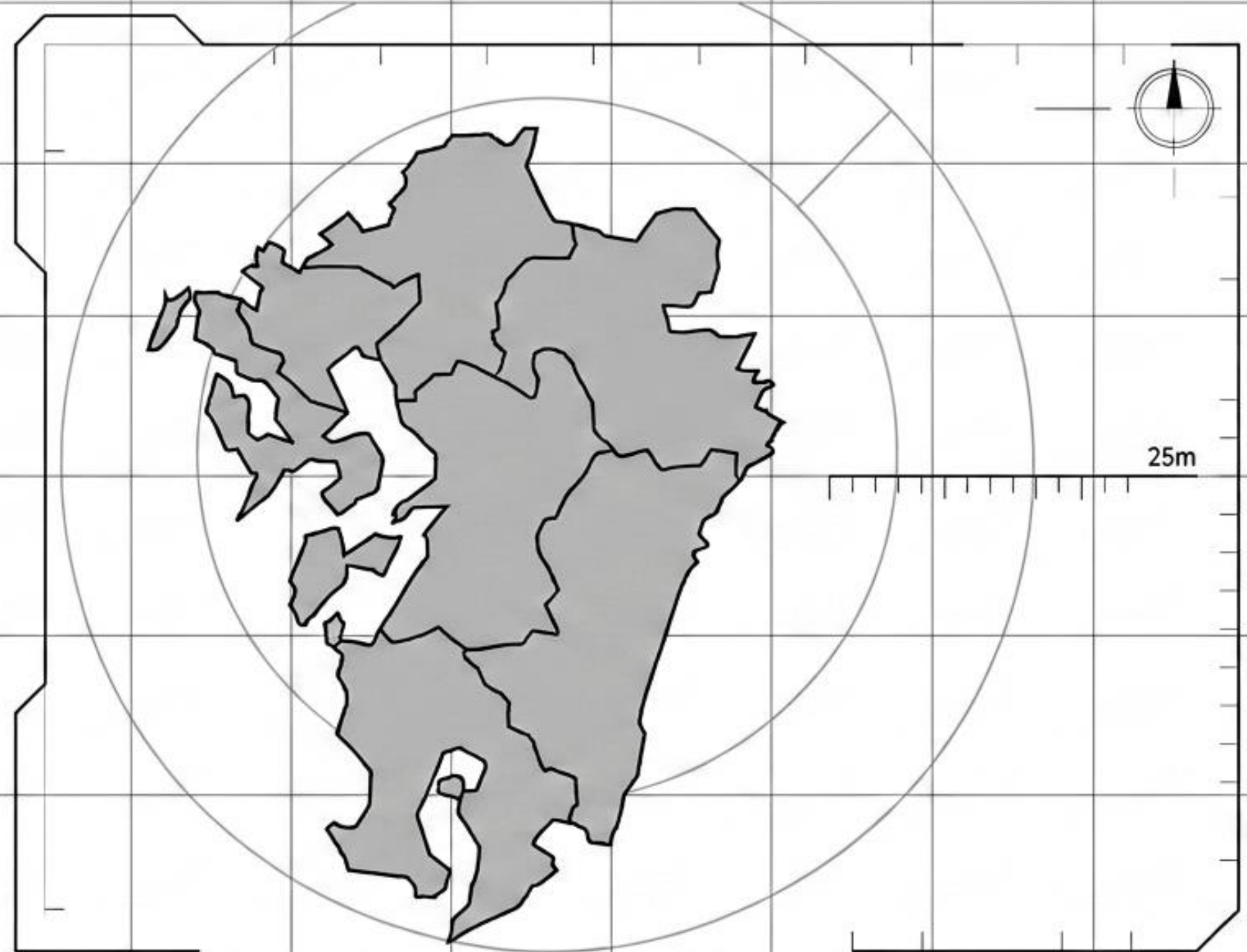
地方から世界へ：大会の階層構造



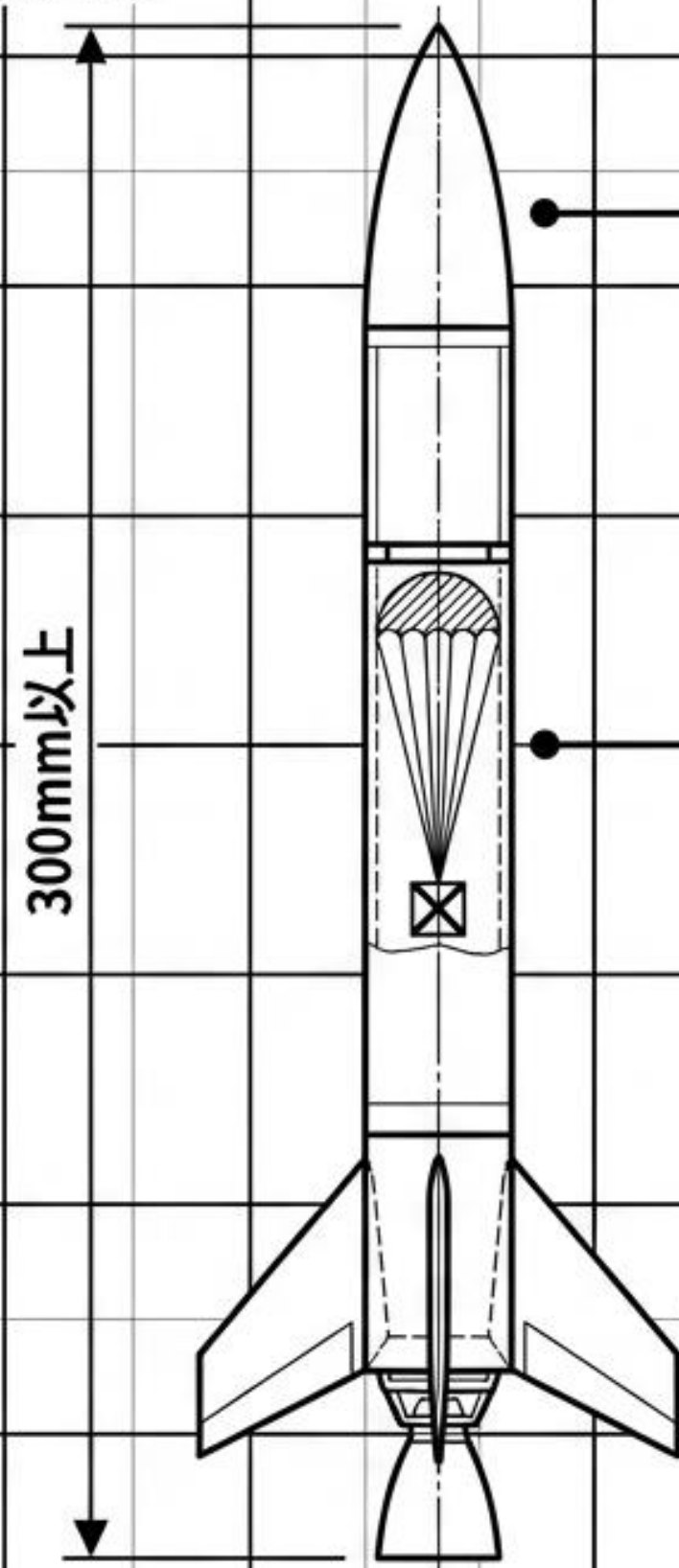
地方予選会場：国東市内グラウンド（調整中）

施設名：
国東市内グラウンド
（調整中）

特徴：
高い安全基準を満たす、
実践的ロケット打ち上げに
最適なフィールド。



機体設計の厳守規格

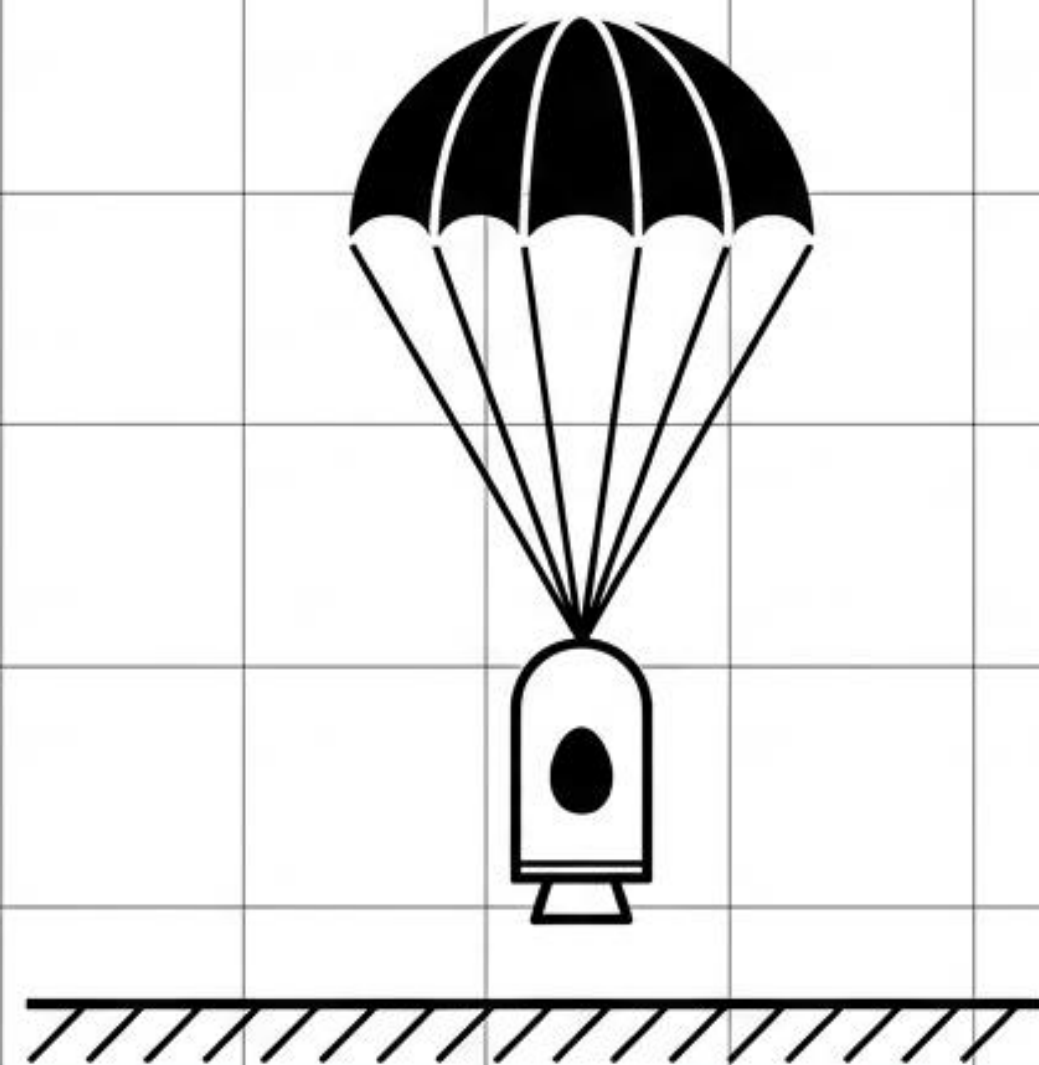
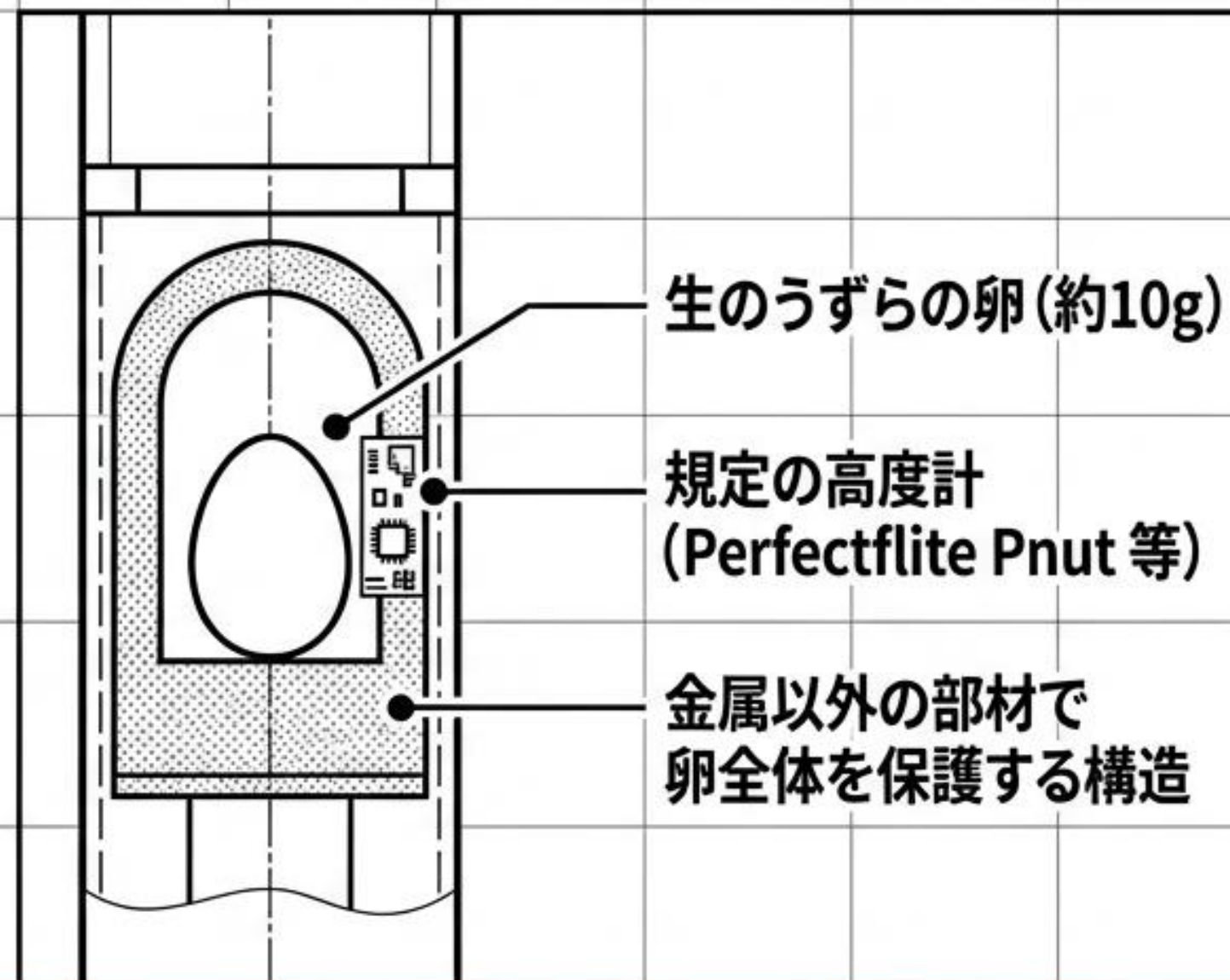


全長：300mm以上(フィンの後退代含む)
搭載要件：1段式構造(分離機構必須)

回収装置：パラシュートのみに限定
外装要件：全体塗装またはコーティング必須
(JARライセンスナンバー記載)

重量：150g以下
推進装置：C型モーター出力相当(トータル
インパルス10N・s以下)を1本のみ使用

ミッション認定の絶対条件：卵の無傷回収



打上げ後の卵の無傷・安全な回収

※ヒビや割れがあった場合は記録無効・認定不可

精密性を評価する得点算出の仕組み

高度
(m)



① B型エンジン: 目標高度 76m
目標滞空時間 16~18秒

滞空時間 (sec)

目標値からの差異(絶対値)
= ペナルティポイント



搭載部の全てが円内に着地した場合
**合計ポイントから
-5点 ボーナス**

大会当日の標準進行プロセス



事前審査

事前の安全な打上実績(テストフライト等)の確認。



機体準備

エンジン、卵、高度計の装填。大会用意または独自製作のコントローラーの準備。



自律飛行

打上後の外部無線操作禁止(GPS除く)。火薬を使用しない自立式のオンボード制御。



回収と記録確認

人の手を介さない着地。着地後3分以内の状態確認(卵の無傷確認)。

※異議申し立ては着地後3分以内に最大1回可能。